

小坂町総合戦略 事業評価シート② 【令和6年度評価分】
(奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト)

総合戦略における基本目標		担当課		観光産業課観光商工班	
		基本目標Ⅲ「しごと」 地元産業間の連携による地域活性化プロジェクト 夢が実現する、安定した生活が送れるまちづくり			
事業名		奥秋田サスティナブルツーリズムプロジェクト ～地域の強みをサスティナブルな取り組みに進化させ、稼ぐ観光へ～ (デジタル田園都市国家構想交付金【地方創生推進タイプ】)		実施年度	令和4年度～令和8年度 (3年目評価)
目的		国内外の環境・文化の振興を志向するすべての人々を対象に、『未来に向けて自然と暮らしを守り、活かし、つなげる。恒久なる時空を超えた、成長する・貢献する旅づくり』をコンセプトとした、北奥羽の広域的な連携による相互の発着型観光となる「旅づくりの拠点」整備と、『環境にやさしい、身体にやさしい、人にやさしい奥秋田』をコンセプトとした、「環境、産業、教育、文化、自然」などの様々な分野に当エリアの強みであるサスティナブルを付加価値として新たに加えた、モノ(商品)とコト(観光)を開発し、「稼ぐ観光、豊かな暮らし」に繋げる。			
実施内容		1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり 2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備 (1) 地域における持続可能性に配慮した取り組みの拡大支援 (2) 修学旅行・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立 (3) 海外留学生の受け入れのためのプログラム開発、枠組みの整備			
KPI ※令和6年度末目標 ※広域連携全体		①地域への経済波及効果 20,950百万円 ②教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 5,621千円 ③農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 3,306千円 ④来訪者の地域のサスティナブルな取り組みに対する評価(5段階評価) 4.45ポイント	KPIIに対する成果 ※令和6年度末実績 ※広域連携全体		①地域への経済波及効果 20,950百万円【仮】 ②教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 7,665千円 ③農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 3,385千円 ④来訪者の地域のサスティナブルな取り組みに対する評価(5段階評価) 4.16ポイント

事業費(小坂町分 交付金対象額 交付金は対象経費の1/2)			(単位:円)
事業費	令和6年度		令和7年度
	予算(当初計画申請経費)	決算(交付金交付額)	予算(当初計画申請経費)
	3,904,000	1,631,646	3,904,000

令和6年度の取り組み

【ハード事業】 ○なし
【ソフト事業】 1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり ○潜在顧客や市場環境分析のためのマーケティング調査 ・秋田県と連携したデータ活用【DMP活用】 ・DMP活用研究会開催 ○サステナビリティを主眼とした新規来訪者獲得のためのPR戦略構築 ・台湾旅行博への出展によるプロモーション ・外国人インフルエンサーを活用したエリアプロモーション ・SNSの運用によるエリアプロモーション ・Google検索連動型広告の運用 ○エコツーリズムの推進とエコツアー開発のための資源発掘・体制整備 ・乗合タクシーオンライン予約システム導入(森吉山周遊乗合タクシー) ・「マタギトレイル」の商品化と高付加価値化に向けた協力体制の構築 ○近隣DMOとの連携したDXプラットフォーム構築のための体制づくり ・十和田八幡平国立公園を巡る各種事業における連携(八幡平DMO、十和田奥入瀬観光機構、かづのDMO) ○地域の持続可能性に寄与する新たな産品・サービス等の開発及び販売(文化、自然環境、地域コミュニティ、経済) ・秋田犬ふれあい体験の試験的有償サービス実施 ・技能実習生ツアーの実施 ・ツアー造成視察の受け入れ(ツナガル株式会社(海外向け販売の旅行会社)) ・十和田湖へのHOBIE導入(アメリカ発の水上アクティビティ) ・枝豆や比内地鶏等の特産品を活用した商品開発 ・都内商店街と地元産直を繋ぐ、産地直送型取引「ハチベジ」の展開 2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備 1) 来訪者アンケート・満足度調査 ・来訪者アンケート調査のデジタル化と分析 2) 地域における自然環境に配慮した取り組みの拡大支援 ・コミュニティラジオを活用した住民への活動周知 3) 修学旅行等・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立 ・インセンティブツアー(報奨旅行)の誘致(タイ王国の企業が来訪) 4) 地元教育機関を活用した受入態勢の構築 ・阿仁学園と連携した商品開発と観光受入プログラムの設定

今後の取り組み

KPIは概ね達成できているためこれまでの事業を継続しながら、一部事業についてはステップアップや見直しを図る。

1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり
- 潜在顧客や市場環境分析のためのマーケティング調査
 - ・秋田県や近隣DMOと連携したデータ活用・分析
 - サステナビリティを主眼とした新規来訪者獲得のためのPR戦略構築
 - ・インフルエンサーや各種メディアを活用したエリアプロモーション
 - エコツーリズムの推進とエコツアー開発のための資源発掘・体制整備
 - ・縄文・マタギ文化を基軸としたサステナビリティブランディング
 - ・「マタギロングトレイル」の商品化と高付加価値化に向けた協力体制の構築
 - 近隣DMOとの連携した受け入れ体制づくり
 - ・十和田八幡平国立公園を巡る各種事業における連携（八幡平DMO、十和田奥入瀬観光機構、かづのDMO）
 - 地域の持続可能性に寄与する新たな産品・サービス等の開発及び販売（文化、自然環境、地域コミュニティ、経済）
 - ・枝豆や比内地鶏、山菜等の特産品を活用した商品開発
2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備
- 1)来訪者アンケート・満足度調査
- ・来訪者調査内容の磨き上げ、分析精度の向上や外部専門家による改善に向けた事業提案
- 2)地域におけるサステナビリティに配慮した取り組みの拡大支援
- ・地域の事業者や住民向けサステナビリティセミナー等の啓蒙活動
- 3)企業研修等の誘致と農泊の持続可能な受入基盤の確立
- ・企業や学生向けサステナビリティ学習プログラムの確立
- 4)地元教育機関を活用した海外留学生受入態勢の構築
- ・AKITA INAKA SCHOOLにおける外国人留学生の文化体験の深化（体験だけでなく、文化や伝統の背景にある歴史や課題について考える時間をプログラム化するなど）
 - ・学校や地域住民と協同した観光コンテンツやツアーの造成と取り組みを通じた観光教育による育成

◆担当部署自己分析

妥当性評価	11	有効性評価	11	効率性評価	8	総合評価	達成度
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3	30 / 45	B 相当程度効果的であった
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	3	コスト削減の余地はないか	2		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3		

※評価基準：1－非効率、不適切 2－検討・改善余地あり 3－どちらでもない 4－効果的、適切である 5－大変効果的、最適である

※担当部署での評価【達成度】：A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

◆小坂町地域創生本部による客観的分析

妥当性評価	10	有効性評価	10.5	効率性評価	8.6	総合評価	評価
町が関与すべき事業か	3.4	事業は効果的か	3.5	他に効率的な手法はないか	3.2	29.1 / 45	B 相当程度効果的であった
町民のニーズは高いか	2.9	成果が期待できるか	3.2	コスト削減の余地はないか	2.5		
目的・対象は妥当か	3.7	政策目標の実現に貢献しているか	3.8	受益者負担は適当か	2.9		

※評価基準：1－非効率、不適切 2－検討・改善余地あり 3－どちらでもない 4－効果的、適切である 5－大変効果的、最適である

※地域創生本部での評価：A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

◆小坂町振興計画審議会による客観的検証

意見	評価
4市町村の合同プロジェクトであるため、本事業における町の認知度向上及び経済波及効果にどれほど貢献しているか成果が見えにくい。この事業に対する分析のための費用対効果が難しいことは理解するものの、DMO事務局への働き掛けもより一層行い、構成市町村と互いに良い方法を見出しながら、構成市町村別の分析を行い、町への成果の見える化に努めること。	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった

※審議会での評価：A-地方版総合戦略のKPI達成に有効であった B-地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない